

武蔵野市第五期長期計画紹介 及びワークショップ報告書

(平成 24 年 3 月 18 日開催)

武蔵野市

目 次

§ 1	ワークショップ討議結果報告	
1	目的	3
2	背景	3
3	位置づけ	3
4	テーマ及び実施方法	3
5	グループごとの発表シート・作業シート	
	(1)「コミュニティ・地域のあり方」	4
	(2)「自治のあり方」	8
§ 2	事業概要等	
1	事業概要	14
2	当日の進行	15
3	資料	
	(1) 参加者属性	16
	(2) 参加者アンケート集計結果	17
	(3) その他資料	
	①ワークショップのご案内	23
	②見学のルール	23
	③プログラム	24
	④テーマごとの情報提供資料（当日机上配付）	24
	⑤レジュメ	25

§ 1 ワークショップ討議結果報告

1 目的

第五期長期計画の策定のために実施した無作為抽出市民によるワークショップへの参加者に長期計画の成立と内容について報告を行う。また、市民自治を推進する観点から、地域活動への参加を拡大するための方策等について意見をいただくことを目的とする。

2 背景

第五期長期計画では、基本課題Aとして「地域社会・地域活動の活性化」の必要性を述べるとともに、市政運営について、「市民自治を原則として市政運営を行っていくために必要な制度や手続き等のルール化を進めることで、自治体運営に関するルールの体系を構築し、本市が目指す自治のあり方を市民・議会・行政で共有していく」とした。

本市ならではのルールを構築する前提として、市民自治の基礎ともいえる地域活動を活性化することが重要であることから、地域への関心を高め、関わりを持ってもらう必要がある。

3 位置づけ

来年度は第五期長期計画の1年目であり、上記に向けた取組みとして「これからの地域コミュニティと市民自治の検討」と題して、無作為抽出市民によるワークショップを開催する予定であることから、その参考となるようなワークショップとして位置づける。

4 テーマ及び実施方法

今回のワークショップは、第五期長期計画のスタートにあたって課題となる「コミュニティ・地域のあり方」「自治のあり方」をテーマとして行った。討議は、前回までと同様、各分野について1グループ4～5名ずつ8グループに分かれて行った。

①受付でくじを引いて、テーブルを決定

②市長より第五期長期計画の紹介及びスタートにあたっての問題提起

③問題提起を受けて、自由に議論

④メンバー交代をして議論

(多くの方と意見交換することで、より深い議論とするため)

⑤当初のメンバーに戻って議論、グループの意見をまとめ

(出された意見を分類し、その中からグループとして大事だと思ったこと、関心が高かった話題を3つまでまとめる。)

⑥テーマ内でグループごとに発表 *今回は投票は行っていない。

5 グループごとの発表シート・作業シート

(1) 「コミュニティ・地域のあり方」

<発表用シート>

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 1
メンバー フジさん、阿部さん、りゅうさん、吉田さん、中田さん	
グループの意見	
<p>■コミュニティセンターって？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使い方（一部の人だけでなく老若男女使える場） ・運営方法 ・コミュニティがとれる場所への回帰 ・有料化も？ 	
<p>■自治会・町内会の必要性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あったほうが良いが・・・ ・賛否両論（会費・ネット希望者もいたり・・・） 	
<p>■市職員の方へお願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティセンターの実態把握 ・防犯防災の機能をコミセンにもたせることでコミュニケーションをはかる場所になるのでは？ 	

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 2
メンバー いとりさん、Kさん、安田さん、かおり	
グループの意見	
<p>「市が考えるコミュニティって何？」 そもそも何？ 定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市全体でコミュニティを考えるとまとまらない？ ・コミュニティがもたらす利点って？（特に若者世代に） 	
<p>「市に推進してもらいたい事」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市から町ごとに担当を任命していく（コミュニティ単位に市がサポート） ・市が個人の情報を集めて、孤立死を防ぐしくみをつくる（ネット端末？） 	
<p>「防災のためのコミュニティ」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災ありきのコミュニティ ・地域ごとに防災イベント（グッズを配る） 	

<作業用シート>

1グループ「コミュニティ・地域のあり方」

- ・町づくりに焦点をあてる、市民の声を聞く
- ・市報映像重視、目で見てわかるモノ
- ・町づくりには先頭に立つ人必要 市職員 →担当決め
- ・市が率先して・義務化・ルール化・組織化
- ・趣味の活動については有料化してもいいのではないかと
- ・コミセンの区割、単位が分からない
- ・地域コミセンの活動を広く住民に伝える工夫をしてほしい。
- ・コミセンの中で世代交流もできる工夫をしてほしい
- ・コミュニティには特に小中学生に参加してもらい、老人とのいっしょの遊びをして欲しい
- ・他年代とのつながりがない
- ・子供会のような会を乳幼児からスタート
- ・ネットでコミュニティをはかっている実際のコミュニティを
- ・防災のためのマニュアル（どこに何がある、とか）を年1位で告知して町づくり
- ・託児所、庁内での施策→ルール化
- ・ボランティア講師におばあちゃん、おじいちゃん
- ・モデル家庭をつくってみる
- ・子供と老人、一緒に使えるフリースペースとしてコミセン利用
- ・コミセン、テンミリアン、一部の人のみの利用
- ・コミセン、市職視察でよりよい使い方
- ・過去町内会有一お金の徴収など大変、なくなる
- ・自治会モデルケースを作ろう、担当を決める
- ・町内会議→災害時に必要として集めるとかアイデア
- ・防犯・防災のため！！ということで町内会を義務化
- ・コミセンが主体の町づくり→孤立死防止
- ・コミセンが中心になって市の職員も1人おく
- ・自治会があっても参加する人はごくわずかであった人
- ・町内会の中でもマンション（共同）等はなかなか加入者が少ないので積極的な参加を！
- ・向こう三軒両隣のなコミュニケーション
- ・単身者の孤立防止
- ・回覧板的な存在で近所の人顔をを知る

2グループ「コミュニティ・地域のあり方」

- ・防災ありきのコミュニティ
- ・災害時にコミュニティが役立つ？
- ・地域ごとにイベントを開催し、年1回は参加しては？
- ・地域単位での防災訓練
- ・防災グッズを配る
- ・計画が総花的
- ・高齢者対策孤立化
- ・高齢者の問題は若者には理解できない
- ・郵便局員が把握して見てもらう？
- ・年代ごとでコミュニティの単位を作ってもよいのでは
- ・計画の実施～課題を焦点化
- ・お店の中に少し話せるようなスペースがあると良い
- ・食堂を作るなどコミュニケーションの場を市が作って欲しい→担当職員を置く
- ・コミセン内に食べる場所？
- ・祭など共同でできるもの（利益外で）で世代間コミュニケーションの場がもっとあってもいいのでは？
- ・0123はコミュニティ作りには機能してない？
- ・コミセンで赤ちゃん or 高齢者の場所
- ・コミュニティって何？ムスカシイ、できてない
- ・町内会・自治会は作ってもうまく機能するのか？→時代の流れ
- ・コミセン→担い手不足 etc うまく機能してない
- ・コミセンの運営自体が理解されていない
- ・ムサンノ市が考えるコミュニティって？
- ・コミュニティがもたらす利点が伝わってない？若者世代に？
- ・コミュニティの範囲や定義って何？知られたくない人もいる
- ・寺の鐘が聞こえる範囲
- ・人の噂の聞こえる範囲 by キルケゴール
- ・市が町ごとに担当を任命していく？
- ・町がさぼく化、誰が進める→市
- ・自治のルール化
- ・市が個人情報を集めるべし
- ・ネット端末で毎日ボタンを押して発信してもらう？
- ・市の広報の多様化
- ・地産地消

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 3
メンバー 山岡、網野、たちから、山口	
グループの意見	
<p>参加の動機づけ。 メディアの活用（情報発信）→市も町内会もコミュニティも。IT利用 メリットをうったえる。何が欲しい？ 町内会、自治会の設立（今無いところ）、市のかかわり ・市の職員が担当外で関わる。 ・職員に限らず、働いている人が関わる。</p>	
<p>コミセンの利用方法、利用しやすさ。 ・有料化（利用者が負担する） ・世代間のイベント、同世代のイベントをやりやすく。 ・防災などは無料がよい。</p> <p style="text-align: center;">近くて使いやすいコミセンに。</p> <p style="text-align: center;">・生活習慣病予防 ・地産地消にも良い。</p>	
<p>コミュニティを育む場の提供 ・むさしの市営食堂←例えばですが、吉祥寺駅近くとか。市庁舎からとび出す!! ・市報を紙だけでなく映像、ビジュアル化、配信、ポスター、IT利用 ・コミュニティ≠町内会。場合によってはマンション単位のあいさつ運動や防災訓練もよいのでは。</p> <p style="text-align: center;">自主三原則と言って市は放置しないで、めんどろを見てネ。</p>	

3グループ「コミュニティ・地域のあり方」	
<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター ・市がやっていること、施策の見える化 ・むさしのFM、ケーブルTVをもっと活用→見たくなる、聴きたくなる ・You Tube活用 ・メディア映像等をつかった広報（IT化） ・広報に力を入れる必要がないか ・日頃の地域のつながり→回覧板、地域（町内会）ではないのだが ・小学校のイベントやっても中に入れない ・不活性な地域をどのように活性化するか？ ・社宅、独身寮入居者をどのように巻き込むか？ ・お役立ち情報を登録メール先に送る ・市からメール発信、希望者のメール登録 ・コミセン、コミュニティを使う人が限られている。敷居が高くなっている感じ… ・コミセンを生かす。子育て流量世代へもアピール、地域交流 ・コミュニティ、地域のつながり、入る人、入らない人がいる→難しいですね ・コミセンで世代間交流できるとよい ・コミセンの使い方がよくわからない ・趣味のコミセン利用は有料化→特定の人利用は抑えられるのでは。 ・コミセン常連の人が使う場になっている ・例えばマンション単位でできることもあるのでは？ ・マンション単位で防災訓練をやらせたらどうか ・コミュニティのメリットをうったえないと ・町内会である必要性、町内会でなくてもできる活動もあるのではないかと ・マンションに住んでいて長い間いてもとなりの人の顔分らないことも ・マンションでは会ったらいさつ ・市は自主三原則といって放置しない ・自主三原則にとらわれず市の指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティを育む機会が少ない（市民マラソン、市民体育会） ・コミュニティを育む（場）が少ない（コミセン…食の場の提供） ・町内会の整備、全市内網羅 ・むさしの市営食堂など具体的に提案したら？ ・町内会の設立 ・組織の中で職員の町内担当制 ・市で現実を理解する必要があるのでは？ ・託児所、コミセンや小学校でできないか ・市民がコミュニケーションとる場 ・市民が自主的にやるには、バックアップが必要。そんなことができるのか ・子供をあげられるしくみ ・ペット活用できないか ・職員に限らず市内で使っている人で集めてもよい ・住む場所によっても課題が違う。例）吉祥寺、人が多すぎ ・各世代が抱える課題が違う。→同じ場で話し合おうとすることに無理がある ・家族のつながりも希薄→家庭の歴史がない、独断と偏見が通用してしまうことも ・高齢化に応じた助け合い ・いきなりコミュニティといっても集まりにくい ・動機がない ・コミュニティに何を求めているのか？ ・同世代のパワー強化（20・30代、60・70代） ・SNS などバーチャルで集めてから実際に集まったら ・同じ世代どうし、世代間でもよい ・自宅にいながら参加していいのではないかと ・インターネットの設定を若い人にやってもらう→スーパーの宅配サービスなどの利用

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 4
メンバー マツヤマさん、ヤナギ、池ノ上、山ちゃん	
グループの意見	
<p>みんなが足を運びたくなる魅力的な場の創出</p> <p>コミセンの改革、もっと人が集まりたくなる場に</p>	
<p>自治会活動の活発化 イベントの企画、地域の交流 一声かける あいさつの重要性</p>	
<p>地域での子供と高齢者の関わり 年齢差を越えて</p>	

4グループ「コミュニティ・地域のあり方」	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会活動はすぐ活発だが無関心な方もいる ・夏祭り、他行事月1回の喫茶を開いてコンサートなども開いている ・自治会コミュニティは活発だが幹事は大変 ・町内会の存在を知らない人もいる ・幹事は大変だが地域の一人として生きがいはある ・男の人がお年寄りに粗品を届けに行くと、女の方は警戒する ・3・11の経験から近所のお年寄りの見守り隊を作っている ・町内会とはそもそも何だ？ ・高齢者と若者が交流するのが困難 ・子供さんが自立された高齢者世帯が多い ・いざという時助けて欲しいが普段はほっといて欲しい ・不干渉を良しとする傾向、プライバシー尊重と安全管理 ・集合住宅の人と戸建て住宅の違い、親近感を持ちにくい ・マンションに住まわれる方達をコミュニティに加わせるには？ ・男女別では男性は「声掛け」が苦手な人が多いのでは。 ・コミセンは集まりの「場所」として使っている。市民以外が大多数のケースも多い。 ・個人情報保護が壁になり接触が難しいことも（近所同士） ・マンションではあえて孤立的な生活を求める人が少なからずいる ・人間関係が問題となり、参加しづらいことも多い（コミセン） ・近所の人とつまず離れずの付き合いをとる事が難しい ・頭では分かっているが実際に面識のない人に声をかけづらい（不慣れ）… ・気軽に声をかけられない（危ない）状況は長い時間かかってきた 	<ul style="list-style-type: none"> ・0123 からの繋がり継続→乳幼児から児童へ→児童から青年へ、継続した市民の繋がり ・あいさつの大切さ ・地域で子供を育てる為のよい方法は？ ・例えば、大地震時、あのおばあさん大丈夫？と感じる子供がいない… ・少子高齢化、子供を生みやすい環境とは？ ・コミセンが形骸化 ・高齢者世帯の定期的な声掛け、民生さん等だけ ・コミュニティセンターはグループの場所借りで地域のコミュニティにはなっていない ・市内の人との出会いのチャンスは何でしょう？スポーツクラブ ・イベント企画→コミセン、食、コミセンの形骸化、武蔵野食堂、コミュニティの範囲とは？寺の鐘が聞こえる範囲？ ・コミセンが中核となる事が望ましい（16団体を活かして） ・学校教育でのボランティア活動※自分の住んでる地域で→コミセン（16）で区画割する等 ・コミセン魅力的に！ ・成人男性が地域でつながれる場を ・デザートが多い所、伊勢丹閉店に伴う喪失感された、早急な大事、高齢者 ・目的（防災・福祉）があるコミュニティ参加するメリット ・勝手にしてられることを是としている人も、まず集まる→飲食を伴う集まり→PTAの事業、階層の違い・目的の違い人と人が接する一線をあわせて ・食のあり方→年齢層の違い、同世代で集めて総論になりがちな問題を各論化できるのでは ・個人個人の幸福感→満足させることが原点。その為には

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 5
メンバー ミヤカワ、ともこ、ひろ、しげ	
グループの意見	
<p>必要最低限のゆるいつながらり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時に助け合える仲 ・高齢者の安否確認ができる 	
<p>町内会はあった方が良いのか？⇒グループとしては不要 〔メリット〕 〔デメリット〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの安否確認 ・個人の生活が制約される ・回覧板による小さい交流 ・個人情報保護法のカベ ・周辺のそうじ ・わずらわしさがある ・災害時に助け合える ・今まで無かったので抵抗感がある 	
<p>コミセンの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミセンが利用しにくい ・多少有料化してでも使いやすくするべき ・市の一部施設はネットでも利用予約できるが、コミセンは電話や直接向かかないと予約できない ・地域ごとに設置されているのだから、もっと活性化させるべき 	

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 5
5 グループ「コミュニティ・地域のあり方」	
<ul style="list-style-type: none"> ・世代を超えてのつながり ・住まいを中心に何百米径の人達をコミュニティとするか ・災害時は近隣が大切？ ・コミセンが遠い、気持ち的に ・高齢者のサポート体制（異常時の連絡） ・単身世帯のケアのあり方！？ ・コミセンの利用しにくい ・今のコミセンは各々のサークルの借りの場所でしかなくなっている ・自治会・町内会が無い、年代が大幅に違う ・自治会の活動災害時の見守り ・働く人が増え、そもそも地域に参加しにくい ・自治活動のある所は活発にコミュニティあり ・「個人情報」が見守りのネックになっている ・回覧板あった方が良いのでは ・町内会 ・町内会メリット回覧板 ・メリット周辺の掃除 ・メリットお互いの安否確認 ・デメリット個人情報保護法の壁 ・デメリットわずらわしい ・デメリット個人の生活が制約される ・コミセンの強化 ・孤立死、パソコンでの確認（SNS・ネット） ・高齢者の安否確認、ネットの構築 ・市の課題、地域の課題について市民が話し合う場を作る ・コミセンなど地域で「議会」を行う ・コミセンを活かす・子供世帯は学校、若い世代は子供ができないと・老人は老人・子供は子供・町内会の設立・有料化→コミセンの活性化・向こう3軒両隣・回覧板（民生委員）・動機がない（SNS）輪から外口なし・コミセンの使い方（ネット化）、人とのつながり・助け合い、防災訓練 	

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 6
メンバー 江川さん、太田さん、たーこさん、くら	
グループの意見	
<p>防災を中心としたコミュニティ・地域作り。 〔職域の人も含めて〕 防災訓練・講習会など、今最も参加意識の高い事で地域意識を高めよう！） 高齢者・弱者を含めて！！</p>	
<p>町内会を作った方が良い・・・かな？ コミセンだけではカバーしきれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回覧板があると良い。 ・自主参加が難しく、行政も関与して欲しい。 <p>コミセンに入ってくる人が少なく高齢化。 役員なり手がいない コミセン→男性の参加少ない</p>	
<p>コミセンのあり方を考え直す。 ・地域に本当に根ざした活動の場とする。 〔場所貸しだけでなく〕</p>	

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 6
6 グループ「コミュニティ・地域のあり方」	
<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンは場所が少なく、そこを中心に地域を考える事はできないのでは。 ・「となり組」の国からの管理のイメージがあり町内会はや ・コミセン（・学習室・趣味の集り）良い面も ・つながりではない、場所にしかなくてない。 ・コミセンだけでなく回覧板でのコミュニティ作りもほしい ・町内会あった方が良いのでは？町内会に機能を移行 ・回覧のみはまわっている所も ・使い易い、にくいがある ・コミセンで地域単位のイベントをひらく ・町内会作った方が良い ・「自主参加」とはなかなか行かず行政の方で参加させた方が良いのでは？ ・働く人はそもそも地域に参加しにくい ・働く人の増加（女性も） ・防災関係の講習なんかだと参加しやすい ・地域の繋がりを強めるため防災訓練をしてほしい ・職域のコミュニティも考えては ・コミセン→学校？学童クラブ ・コミセンの常駐の（ボランティアではない）係員がいると良い ・コミセンの地域わけはよくわからない⇒防災を中心とした ・子供を中心に敬老会的なものをとするのも良いのでは？ ・子育て・青少年 ・個人情報がネック 	

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 7
メンバー 今田さん、河上さん、和田さん、吉原	
グループの意見	
<p>① コミセンのありかた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミセンを通じて市に意見・要望・実態を伝える ・ 「市からの情報を市民に伝える ・ 現在のコミセンの施設・使われ方をもとに一層の活用を図りたい 	
<p>② 世代を越えた新しいつながりを作るためのイベント等を企画・実行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今のコミセン活動では新しいつながりを作るのが難しい ・ 新しいつながりを作るアイデア出し、敬老会－子供会をつなげる。etc 	
<p>③ 町内会・自治会に対する意識が希薄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ そもそも町内会・自治会が無い地域が多い ・ 孤独死・ぎゃくたい対策として地域活動を推進する母体となりうるか 	

7グループ「コミュニティ・地域のあり方」

- ・ あいさつ
- ・ 個人のつながり
- ・ 町内会・自治会に対する意識が希薄であると感じる
- ・ 町内会・自治会の名乗りがない
- ・ コミセンが中核になって活動しなければならない→コミセンの存在を告知
- ・ コミセンが16あることは充実していることだと思う
- ・ コミセンが中核をになう形が望ましい。**「匿名収集」**(四体的な運営は難)
- ・ コミセンの利用、高齢者が中心?
- ・ コミセンの役割 (年代の交流)
- ・ 年代間の交流
- ・ 市民が参加する・集まる祭、場、イベントの企画・実施が重要 (つながりづくり)
- ・ 飲食を共にすることでコミュニケーションが深まっていく
- ・ 高齢者 vs 若者の交流は困難
- ・ つながりづくりの施策を市民の層を分解して整備する←母・父・子・中高年
- ・ 皆が集まって話し合いするチャンスの方が欲しい
- ・ イベントが必要 ・ 飲食を共にする ・ あいさつ
- ・ 町内会が存在しない ・ 1つのコミュニティーから次のコミュニティーへつなげる ・ 市報をさらに有効に接触すること
- ・ どこにどのような町内会があるのか分からない

「コミュニティ・地域のあり方」について	グループ No. 8
メンバー ムラタさん、大槻さん、西村さん、頼さん	
グループの意見	
<p>問 コミュニティーとは何か?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 何を目的とした集まりなのか → 明確に目的が必要 ↑ コミュニティー参画への動機 	
<p>問 では、具体的に何が必要か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは挨拶 ・ 市のサポート ・ 町内会 ・ ネット 	
<p>問 どのように市民に理解を求めるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報・イベントを通じた支援 ・ インターネット利用を通じた交流 → 何かあった時に助け合う関係 	

8グループ「コミュニティ・地域のあり方」

- ・ コミュニティーに何を求めるか?
- ・ コミュニティーのつながりは挨拶から
- ・ 顔と名前の判るコミュニティー
- ・ 共通の興味を持つ者の集り作り
- ・ マンション←「管理組合」
- ・ 目的あるコミュニティーとは
- ・ コミュニティーの形態
- ・ 子供のいる家庭→「PTA」にて親のつながりが形成
- ・ 町内のコミュニティーづくり
- ・ マンション住まいなので地域のつながりは全然ない
- ・ コミセンの使い方(申し込み)がなかなかわかりにくい
- ・ どのような使い方をしたいか←趣味の集り、申し込み方が不明
- コミュニティーって何?
- ・ 出会うの場を設ける ・ 会話の場を設ける⇒SNS を利用→ネットワーク化に順応したコミュニティーづくり
- ・ メリット: 迅速、デメリット: ネットが分からない人と交流が生まれにくい
- ・ コミセンのような大きな単位でなく、隣同士のコミュニティーで十分
- ・ シニアの人の家に1つネットワーク端末を置いて、毎日発信してもらう
- ・ 市活用、市営食堂、市の働きかけ、コミセンの使い方がわからない、個人情報扱い、有料化の問題
- ・ 問: コミュニティーとは?→答: 目的が明確であること(何のために集まっているのか) 防災←動機
- ↑
- 問: 具体的に何をすべきか→答: あいさつ・市政・ネットワーク・コミセン・町内会・市民参加理解深める
- ↑
- 問: 市民にどうやって理解を深めさせるか→解: コミセンの使い方・活用法、パソコン・ケータイ使い方を
- ↓
- 最終: 互助できるコミュニティー

(2)「自治のあり方」 <発表用シート>

<発表用シート>

「自治のあり方」について	グループ No. 9
メンバー オグリさん、ボギーさん、せいいちさん、さくらさん	
グループの意見	
<p>自治会の参加率を高める必要 →組織化を進めるための指針（何を単位に組織するか、など）を市に示してほしい。</p>	
<p>自治会のあり方の再考（特定の人ばかり参加している、などの問題） 参加しない、出席しない人の意見を聴取するための何かしらのルール（アンケートなどの方法も必要なものではないか）</p>	
<p>自治会と市政・行政とのつながりの強化。 ・現状でどのようなつながりがあるかはっきりしない。 ・住民投票制度のあり方も、自治会―行政の関係を考えることから始めるべき。</p>	

「自治のあり方」について	グループ No. 10
メンバー 菅原、村澤、越山、中沢	
グループの意見	
<p>災害に備えるコミュニティづくり。 ①3.11の時、情報ルートが明確でなく、情報がわからなかった。 ②市からの情報を伝える仕組みをつくるべきだ。（ひな壇場所、放射能、ライフラインなど）</p>	
<p>地域の助け合いの場をつくる。 ①エリアの代表者、地区担事議（28名）、役所の代表、情報の伝達、すいあげ、対応をつくる ②エリアの代表者を決める方法を考える</p>	
<p>コミセンの役割を知る。参加者を増やす。 ①若い人、現役サラリーマンも参加するコミセン。 ②コミセンの窓口の方の採用の仕方が不明だ。 ③市長、市議に来ていただき、情報交換の機会をつくって欲しい。</p>	

<作業用シート>

<p>9グループ「自治のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世帯参加率が低い（12％）これを高める必要がある。ルール化／指針などを市が指導できないか（全員参加） ・自治会／町内会は一部の人の「なかよし会」ようになっており参加しにくい。 ・震災にあたって単身（高齢）の方等の手助けは自治会等で大丈夫でしょうか ・道路問題等に市民の意見をどうはんえいさせていただけか。 ・住民投票まで必要と思われるほどの実感はない。 ・しかし本当に市長とギカイが対立してしまったとき、住民のいしをとってほしいかも ・責任ある市民参加に必要な情報。ウェブ上にあると言われても、何を知っておくべきから普通はわからない。 ・町内に自治会があるのかすら分からない→どの様にして（インターネット？）町内会があるのか方法を示す方がよいと思う。 ・自治会があり活動の連絡／報告はあるが、参加しない人（できない人）が多い。その人の意見をどうするか（アンケート） ・自治会に縛られたくない人も多いのではないかと。思う。 ・自治会がない ・まとめる人がいない ・商店会の準会員 ・市民参加は日時の縛りがあるので、中々参加しづらい。→対策。各世帯にアンケート用紙を記入してもらい回収すれば現在の市民の意識が分かるのではないだろうか？ ・関心がない人のフォロー ・自治会と市政・行政とのつながり。よくわからない。そこについて指針を示せないか ・自治会の参加率を高める必要→組織化をすすめるための指針（何を単位にするか、など）を市に示してほしい。 ・自治会のあり方（特定の人ばかりなど）→参加しない人の意見を聴取するルール（アンケートなど）も必要なものではないか。 ・自治会が組織されていない→組織率を上げる。参加率が低い。組織化が必要。→組織化→指針 →コミセン主体？⇒（何を単位にするかとか）だれがメンドウをみるかとか ・自治会のあり方（特定の人） →参加しない人の考えを。アンケートなどの方法 ・①現状ではテーマ・問題がないと思う。制度としては残しておくべき。
--

<p>10グループ「自治のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミセン」の理解が不十分。「コミセン」が市民参加のベースと思う。 ・「コミセン」の参加者はOBと主婦のみである。 ・議会の傍聴とか地域別に参加できるようにしたら如何かと思ひます。 ・高齢化、災害に対応する自治組織→コミセン ・コミセンで「市長との話し合い」一般の人は知らない。 ・リーダーシップをとって運営する人を選ぶ ・明確な自治エリアを行政と市民で共有 ・コミュニティセンターに十年位色々子育て支援とかお手伝いしていますけど次の世代の人がいなくて困っている様です。 ・「近所10軒の会」をつくる必要がある。 ・長期計画の「経過報告会」を毎年実施する。「ワークショップ」ですすめる。 ・市議会議員と現役サラリーマンとのつながりがない ・世帯の構成員が少ないので難しい部分がある。 ・地域で出来るだけ少ない件数のグループを作る。 ・市民が市の運営に参加する会をつくる。 ・市からの情報を行き渡らせる仕組み作り ・コミセン、自治会、町内会がバラバラすぎる ・災害にそなえるコミュニティ作り ・避難場所 etc の告知の問題 ・コミセンのMTGに市長に来てもらって意識を（市民の）高めてもらう。 ・自治単位での集まりを全体化し、行政に連否する。 ・どうしても年代毎になりがちな縦のつながりを作る。 ・集合住宅の自治体と戸建ての方々の集まりの協調 ・自治の最小単位をハッキリさせる ・コミセンの認知度を高める ・「福祉の会」で災害対策をつくる ・集合住宅の見守りの方法 ・クリーンセンターの件も知らなかった→情報を知らせる努力（重要な） ・自治組織の有無や強弱（少しはメリットを与えないとおきなりに） ・市長の「行政報告会」を年に1度行う。 ・市議会議員にエリア担当を細付ける！28名いるので、役所の方もエリア担当をもつ。 ・エリアの代表者を決めて→リタイアされて普段からにしている方（ボランティア）→一軒一軒回ったりして情報を伝える ・個人情報問題 ・若い人が住める街づくり ・現役サラリーマンが集う（市に参加）場所をつくる。 ・民生委員の方の濃い世帯を担当。いくばくかの報酬 ・孤独死を防ぐ。家庭の状況を知る→把握、見守り

「自治のあり方」について	グループ No. 11
メンバー 樋口さん 黒田さん 吉田さん 土屋	
グループの意見	
<p>＜自治の最小単位をまずは決める＞ 例えば本町1丁目・北町1丁目などの単位とかコミュニティーセンター16の単位で分けるなどして決める</p>	
<p>＜市の広報マンの役割を議員にやってもらう＞ 例えば最小単位の地区ごとに担当を決めその地区へのお知らせは責任をもってやってもらう</p>	
<p>＜市民がもっと参加しやすい仕組みを作る＞ 最小単位ごとにイベントや集会などを代表者が責任をもって連絡して参加を推進する</p>	

<p>11グループ「自治のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティでキーンさん、市長さんなど、報告会、討論会などやってほしい、やったら周知してほしい。 ・ 団地・マンション等の住民自治のつながりと、地域の自治的つながりとのかんげいがうすいのではないかな。 ・ 現役がおわると地域に参加、という現状はそれでよいのか。 ・ 災害にそなえる ・ 世帯人員1.9 ・ 組織づくり ・ ボランティアではなく民生委員 ・ 情報発信、これも市民に十分なされておらず、“知らない”が多い。 ・ 前提となる資料、客観的な数字、コストベネフィットの提供が不足している。 ・ 明確化。市民の声をどのように集め、生かしたかわかるようにする。 ・ コミュニティに市長に来てもらいプロジェクトを立ち上げる ・ 代表者は地区にチラシをくばったり、お知らせを周知する ・ 議員を地区ごとに決めその地区のコミュニケーションをやっていく ・ 地区代表を決める時のルールを決める ・ 本町・北町・中町などの1丁目単位で代表者をボランティアで決める。 ・ 回覧等近所付合の重要性 ・ 隣組の活用 ・ 市報に身近な情報、関心を。 ・ 公開討論会の活用（土・日） ・ 誰が住んでるの？ ・ 参加しやすいイベントの実施 ・ 議員さんとの縦なかりを決めたい。（コミュニティ、町ごとに） ・ いつも同じメンバーのイベント参加⇒ルール化。
--

「自治のあり方」について	グループ No. 12
メンバー 武井、イガラシ、斉藤、清水	
グループの意見	
<p>自治会の設立が必要。今がチャンス！！ ・ 市がマニュアルを作成してほしい</p>	
<p>議員のあり方 ・ 選出方法（地域単位で決める） ・ 議員の削減（地域の予算にあてる）</p>	
<p>コミセンの利用 ・ 議員を中心に町づくり ・ 自治会スタッフの有償化（わずかでも） ・ 主婦、若い世代を中心に ・ 町会だよりの発行、告知板、催し物（旅行、飲み会）</p>	

<p>12グループ「自治のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会はあった方がよい ・ 地域ごとにワークショップが欲しい ・ 近隣のコミュニケーション ・ 市がお知らせしてほしい（もっと力を入れてほしい） ・ 今がチャンス。自治会の必要性 ・ 町内のボランティアを募集する ・ 市長によるコミセンで行政に対する希望、要望との話し合いを行う ・ 市議の選出を町単位で変える。 ・ 地域の議員との対話 ・ 議員中心に自治をつくる ・ コミュニティの利用。議員中心に町づくり。市との連携で立ちあげる ・ 自治体のあり方を根本から変える（選出方法） ・ 町民の声を聞く市議会議員（1町→1議員） ・ 3回のワークショップの意見が反映された計画書になっていない。 ・ 議員のあり方、選出方法、議員の削減 ・ 主婦、若者中心に ・ のみ会つき ・ 男性の定年後、まわりに友達がない、女性の方が優先して参加していくべき。そこでダンナさんもひっぱり出す。 ・ 告知板の必要 ・ 町会だよりの発行 ・ 地震・災害のときにもっとつながるコミュニティ・連絡があるべき。 ・ 自治会が有償化（わずか）→スタッフで動く人 ・ コミュニティ泊旅行

「自治のあり方」について	グループ No. 13
メンバー ミケン・大野・福井・太田	
グループの意見	
<p>安心、安全におけた自治体制の確立。 ・どこでも、だれでも知ることができる市政（駅、商店、デパート） ・どこからでも意見が出せる</p>	
<p>町会、自治会の創出を！！ ・防災・防犯・教育・福祉を重点に、権力志向の農村型コミュニティは避けた ・市は町会設立マニュアル作成を。（役割分担、任期制など）</p>	
<p>議会の情報公開を！！ 議会報の内容をもっと解りやすく（議決事項を知らせる） 議員活動をもっと地域に密着させること。 （票にならない活動もしっかりやってほしいから）</p>	

<p>13グループ「自治のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会と福祉の連ケイが大切。 ・どこでも知ることができる市政。 ・議会の決定事項はそのつどわかりやすく情報公開せよ。 ・議会報の内容をもっとわかりやすく ・町会、自治会の創出を！ ・安心と安全にむけた自治体制 ・議員の働き。コミセンに議員が出向いて如何ですか。尋ねて来て。 ・コミュニティは成り立ちにくい。仕事、子育て ・住みたくて入ってきた若者。参加したくないはこまる。 ・若者の参加。どうやって呼びこむか。 ・町会の役割をきちんと果たして欲しい。若い人入って来れない ・自治会用のマニュアル使って！若い息吹 ・市民の声、意見に回答を出すルール作りを ・権力志向の農村コミュニティ型は避けたい ・自治に若い人の参加を ・金ない、年金、家族ない ・若い人が住めない。家賃補助（中央区、江東区）している。高齢も住めない ・駅、商店街などどこでも市の公報ガイドがある。 ・大切なこと財政が問題。基金、借りたお金、子供に負担かけるな。返金して議員職員の給料減らす ・自治会では防災、防犯、教育、福祉に重点を！ ・若い人に家賃補助はどうか。子育てしやすい ・議員が票につながらないことはほしくないことが問題 ・武蔵野市は少子高齢化。1.9は昔から。でも住民性は高いし豊か・・・です ・住んでいる人は何がして欲しい。提案して何が出来るか ・声が出せる行政 ・困ったときは助け。コミュニティがあって自治 ・コミュニティ成立しない。1.9→1.2 0.9 無関心、自治出来ない ・テーマコミュニティ、地域コミュニティ、防災・防犯・教育・福祉

「自治のあり方」について	グループ No. 14
メンバー 奥橋・石田・青木・山本あかねちゃんママ・しょう	
グループの意見	
<p>地域と議員・議会を密接につなげる ・地域ごとに議員を選出する ・コミセンなど地域で議会を行う</p>	
<p>市の課題、地域の課題（少子高齢化、子育て支援、防災・防犯、交通、障害児・者福祉など）について市民が学び合い、話し合う場を作る。 市、コミセン、議員、市民など様々な主体が中心となって作っていく。</p>	
<p>コミュニティの現状 出生率0.86、世帯人員1.92人ではコミュニティ、自治の基盤ができづらい。したがって、少子高齢化に対する財政面での対策が必要。たとえば家賃の補助など。</p>	

<p>14グループ「自治のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題の整理の手順 ・市議の選択と利用 ・市議会を見る機会はあるか ・人がたくさんいないと自治が進まない ・一人の人が負担を抱えず、たくさんの方が出来る範囲で協力しあう ・サービスが良すぎて土地が高く若い人が住めない ・自治…議員選出方法を考え直す。（地域/町区割による選出） ・大型施設など住民投票で決める ・住民投票の制度化必要 ・市、コミセン、議員、市民など様々な主体が主催する ・市民参加の組織 ・わかりやすく昔が読むような内容で ・議会報がわかりにくい。問題点の見える化が必要 ・議員の姿が見えない（一部のみ。駅前など） ・市長以外の議会の役割について、もっとオープンにすべきでは？（興味がない人が多い） ・ボランティア参加、市であっせん ・市議員の配置や異動について考慮がほしい。（福祉、課の方のかかり方などにギモン有り） ・市がやっていることがわかりにくい。・短い文で・テーマを具体的に。 ・市でアンケートして市民の意見を集める ・困ったことがないとならない ・課題について講師を招いて勉強会などを行うのも良い ・声を出しにくい人の声が届くようにする ・コミセンのリーダー的な議員 ・自治のグループをどう作るか？ルール化 ・自治会を知らない。教えてほしい ・若い人達の声 ・住民投票のルール作り ・地域とのかかり方。コミセンで企画 ・自治会リーダーやスタッフは少し有償化してはどうか？ ・夜の教室 ・市に対する要望や意見する場がない？（市長への手紙）
--

「自治のあり方」について	グループ No. 15
メンバー やまちゃん、こだか、もりい、もりた	
グループの意見	
<p>○自治の単位の明確化 ⇒コミセンの活用 運営方法の見直し 情報の発信と伝達の基地へ</p>	
<p>○情報の共有 ⇒コミセンなどを活用して情報格差をなくす。 ⇒特に防災、独居 ⇒世代別情報発信の多様性をめざす ↓ 回覧板、メール</p>	
<p>○市民と議員の距離を縮める。 ⇒コミセン活動への議員の参加 ⇒票に結びつかない活動もやってもらいたい。</p> <p>○ボランティアの活用。</p>	

<p>15グループ「自治のあり方」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動をもっと活発にする。 ・ コミセンの活用は？PR化 ・ 議員は票につながらないことには無関心。自分の意見を公表して ・ 防災訓練の必要性あまり集っていない。公平なPR ・ 市民の参加できる場をふやすー市民の意識の改革 ・ 昔はとなり組町会費 ・ 街灯商店街 ・ 市議会開催を[] []にも開くことはできるのか。見学してみたいと思っているが。 ・ 避難場所として中央公園は安全か ・ 町内の設立マニュアルを[]が作れ！ ・ 議会の結果が必要 ・ 世代別の情報手段の発信方法 ・ 火事 独居 プライベート

「自治のあり方」について	グループ No. 16
メンバー マエシマ・岩崎さん・タケダさん・くじさん	
グループの意見	
<p>○コミセンの利用 1. 災害について前から話し合いの機会を作る。</p>	
<p>○コミセンの利用 毎月一回議員さん呼んで、市民の声を聞いてもらう。 活動報告をしてほしい。</p>	
<p>○アンケートのテーマを決めて、用紙を市報にすみにでも作る（切手なしで投かんできる）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夜のスポーツ教室を増やしてほしい。 ・ ボランティア活動を積極的に支援してほしい。 	

16グループ なし

§ 2 事業概要等

1 事業概要

- (1) 日 時 平成 24 年 3 月 18 日 (日) 13 : 30 ~ 16 : 15
- (2) 会 場 武蔵野市役所 811 会議室
- (3) 対象者 第五期長期計画無作為抽出市民ワークショップ I ~ III の参加者
233 名
- (4) 参加承諾総数 87 名
- (5) 参加者数等 66 名 (参加予定者数 85 名)
※承諾者全員を参加とした。
- (6) 実施内容 第 1 部 第五期長期計画の実行にあたって (邑上市長)
第 2 部 ワークショップ
*テーマ 1 「コミュニティ・地域のあり方」
テーマ 2 「市民自治のあり方」
- (7) 討議の方法 4 ~ 5 人のグループに分かれて自由討議。
途中 1 度メンバーチェンジを行った後、元のグループに戻り、
グループごとに意見をまとめて発表。
* 投票と順位付けは行わない。
- (8) 謝 礼 一日につき 4,000 円
- (9) アンケート回収数 参加者アンケート 57 件 (回収率 86.4%)
- (10) 託児数 5 人
- (11) 見学者数 4 人

2 当日の進行

時間		概要	
13:00		開場・受付	①受付時、くじを引いてもらいテーブル決定
13:30 14:00	30分	オープニング 問題提起	第五期長期計画のスタートにあたって(市長より長期計画紹介及び問題提起)
14:00 14:10	10分	導入・説明・話合い の準備	①今日のワークショップについて ②名札作成「今日呼ばれたい名前」(ニックネームでも本名でも) ③付せん書き(テーマに関連して、感じたこと、気になることについて、それぞれ最低3つずつ)
14:10 14:40	30分	第1ラウンド	①名札に書いた名前の理由を説明 ②話し合い(自由討議) ③意見はどんどん付せんに書いて模造紙に貼って見える化する
14:40 15:10	30分	第2ラウンド	①メンバーチェンジ ②自己紹介&第1ラウンド 話合内容紹介 ③話し合い(自由討議)&付せん書き
15:10 15:40	30分	第3ラウンド	①第1ラウンドのメンバーに戻る ②第2ラウンドでの話し合い内容紹介 ③グループの意見まとめ(盛り上がった話題、重要だと考える意見など。3つまで)
15:40 16:10	30分	グループ意見発表	テーマに分かれてグループごとに意見発表(1グループ3分 ※投票は行わない。)
16:10 16:15	5分	終わりの言葉	市長

3 資料

(1) 参加者属性

項目	男性	女性	合計	年代別構成比(%)
① 10代	0	0	0	0%
② 20代	2	0	2	3.0%
③ 30代	3	5	8	12.1%
④ 40代	3	8	11	16.7%
⑤ 50代	6	5	11	16.7%
⑥ 60代	8	7	15	22.7%
⑦ 70代	8	7	15	22.7%
⑧ 80代以上	3	1	4	6.1%
合計	33	33	66	
比率(%)	50.0%	50.0%		

参加者(66名)の参加履歴

Iのみ参加	IIのみ参加	IIIのみ参加	I・II参加	II・III参加	I・III参加	I～III参加
2名	10名	29名	9名	8名	0名	8名

(2) 参加者アンケート集計結果

(有効回答数：57件)

1 ご自身について回答をお願いします。

(1)性別

項目	人数	比率(%)
① 男性	28	49.1%
② 女性	28	49.1%
回答なし	1	1.8%
合計	57	

(2)年齢

項目	人数	比率(%)
① 10代	0	0%
② 20代	2	3.5%
③ 30代	9	15.8%
④ 40代	9	15.8%
⑤ 50代	11	19.3%
⑥ 60代	13	22.8%
⑦ 70代	11	19.3%
⑧ 80代以上	2	3.5%
合計	57	

(3)ご住所

項目	人数	比率(%)
① 吉祥寺東町	7	12.3%
② 吉祥寺南町	2	3.5%
③ 御殿山	1	1.8%
④ 吉祥寺本町	9	15.8%
⑤ 吉祥寺北町	9	15.8%
⑥ 中町	8	14.0%
⑦ 西久保	8	14.0%
⑧ 緑町	6	10.5%
⑨ 八幡町	2	3.5%
⑩ 関前	3	5.3%
⑪ 境	1	1.8%
⑫ 境南町	1	1.8%
⑬ 桜堤	0	0%
合計	57	

(4)ご職業

項目	人数	比率(%)
① 会社員	19	33.3%
② 公務員	0	0%
③ 自営業	1	1.8%
④ パート・アルバイト	8	14.0%
⑤ 専業主婦・主夫	12	21.1%
⑥ 学生	0	0%
⑦ 無職	15	26.3%
⑧ その他	2	3.5%
合計	57	

(5)武蔵野市での居住年数

項目	人数	比率(%)
① 1年未満	0	0%
② 1年以上5年未満	5	8.8%
③ 5年以上10年未満	4	7.0%
④ 10年以上	46	80.7%
回答なし	2	3.5%
合計	57	

2 本日の議論に参加された感想をお聞かせください。(いくつでも)

項目	人数	比率 (%)
① 市長の話やグループの方々と話して自治や地域コミュニティへの理解が深まった。	37	64.9%
② 市民自治/地域コミュニティについて考えるきっかけとなった。	45	78.9%
③ 地域活動や地域の行事などに参加してみようと思った。	20	35.1%
④ 地域で自分の力が必要とされていると感じた。	6	10.5%
⑤ 何も感じなかった。	0	0%
⑥ その他 ・コミセンのあり方を考えなおす必要が有ると思った。	1	1.8%
合計	109	—

3 どのような地域活動に、関わりたい、または関わってもよいと思いますか？(いくつでも)

項目	人数	比率 (%)
① 趣味など興味がある活動。	30	52.6%
② PTA など子どもや家族を介した活動。	10	17.5%
③ 地域での集まりやマンションの管理組合などの活動。	16	28.1%
④ 地域社協(福祉の会)などの活動。	15	26.3%
⑤ 関わってもよいが、関わり方がわからない。	8	14.0%
⑥ 関わりたくない。	0	0.0%
⑦ その他 ・防災 ・防災に関する事 ・孤独死を避けるようなコミュニティづくり ・充分かわっている ・まちづくりについて、例えば三鷹北ロイルミネーションの配色など ・防災、環境 ・311 後の市民の安全、エネルギー問題、復興支援などの課題にも地域で取り組んでいきたいです。	7	12.3%
合計	86	—

4 地域での理想の人間関係とは、どんな関係ですか？(いくつでも)

項目	人数	比率 (%)
① いざという時に助け合える。	39	68.4%
② 日ごろから助け合える。	24	42.1%
③ 日ごろから会話やコミュニケーションをすることができる。	35	61.4%
④ 会えばあいさつする。	24	42.1%

⑤ できるだけ関わりたくない。	0	0%
⑥ その他	0	0%
合 計	122	—

5 どんなことがあれば地域や市民自治のことを考えたり、関わったりすると思いますか？

- ・ 防災
- ・ 3.11 のような災害で考えるきっかけとなったので、「防災をテーマに」と言うと、関わると思う。まずは日頃の“あいさつ”が大切と思う。
- ・ 防災訓練を地域で行うなどすれば、近隣とのつながりの重要性が分かるのではないかと。コミセン企画でのボランティア（ゴミ拾いや美化運動など）を行えば、人が集まりつながるのでは？
- ・ 災害時の助け合い。
- ・ 一番は防災だと思う。地域ごとに避難訓練をし、防災グッズや非常食を紹介したり配布することで、まずは参加をうながし、徐々に顔見知りになっていくのが一番現実的ではないか。
- ・ 防災を中心とした事であれば進んで関わると思う。
- ・ 災害時以外は本当にとり近所の人たちとあいさつできれば十分です。
- ・ 災害
- ・ 災害の時等、皆で気持ちを一つに行動したい。
- ・ 防災・防犯であるとか、全体ではなく個人に密接に関わる事に関心を持ちやすいと思います。
- ・ 大きな変化があった時
- ・ 災害時や孤独死の問題、etc.困ったことがあった時に
- ・ 環境整備、福祉の仕組み
- ・ 災害や、自分や人が困った時、又イベントや地域の集まり
- ・ 福祉について
- ・ 親の事、町の事で気にかかる問題があれば考えたいと思います。
- ・ 困ったときに助けてもらったとき。
- ・ 困ったことがあったとき。
- ・ 共通の問題、関心事を考える会があるとよいと思います。又は、そういうことに関係なく魅力ある場を作り、そこに情報発信する。
- ・ 具体的なイベントで楽しい体験ができたとき。良きリーダーに出会えたとき。
- ・ 楽しいイベント
- ・ 気軽なのみ会などをふまえた、市議との話し合いの場など
- ・ ワークショップなど
- ・ このような会に参加させて頂くと関心が高くなり、地域の事も考えるようになります

- ・ 今回のようなワークショップ
- ・ 日常のコミュニケーション作り。
- ・ 人間関係のわずらわしさと＜絆＞＜和＞といった相矛盾するものを、どこに線を引くかの難しさを強く感じた。
- ・ 日頃から会えばあいさつし、思いやれる心をもって生活する
- ・ 町内会の様な組織が。
- ・ これから地域のための行動をしたいと思います
- ・ 住環境の改善
- ・ 市職員と関わる機会
- ・ アンケート用紙があればいいと思う
- ・ 関わりが結果となって見え、意義を実感できること。
- ・ 市で催している募集している事が分かる情報があれば判断出来る。
- ・ 防災、環境、危機管理、高齢者・障害者対策、健康、安全・安心、税金など（バク然としているのでどう答えてよいかむずかしいです）

6 今回のワークショップの感想（印象に残ったことなど）を自由にご記入ください。

- 様々な人が武蔵野市に住んでいらっしゃることにおどろきました。武蔵野市がお金のある市であること、住民の知識レベルが高い事も感じました。また今回は話題がズレているのかもしれませんが、住民だけでなく吉祥寺駅前の事業主さんたちとの意識のすり合わせも、町の未来としては重要ではないのかと思いました。
- 世代の違う人との話がきけてよかったです。
- 自治活動の難しさを再認識した。
- これを機会に提案者に懸賞を付けたら！！
- 身近な問題なので話が盛り上がっていた。
- 議員と市民との関係がうすい事があらためて理解出来た
- 世代を超えて話し合えるのは良いと思う。皆がある一定の関心の持てる自治会・町会について考えるきっかけになった。
- もっともっと若い人を！意見だけ言って何も動かない年配者が多い（多すぎる）
- 議題が難しいと思った（なかなかまとまらない）。前回に比べ高齢者が多く、意見に片寄りが出るのではと思った。若い世代の声がないと、もったいないと思う。
- 自治会の無い地域が多い事にビックリした。
- もっとメンバーで討議する時間をたくさんとった方がよい。
- コミュニティー地域の重要性とともに、難しさを感じた。単身世帯や若い人にはコミュニティーのメリットが感じられないと思う。自主・自治に期待するのはこの時代には厳しく、行政が関与・先導しつつならざるを得ないと思う。
- 「町内会」が戦時中の国からの管理を受けた「となり組」をイメージしてイヤだという意見を聞き、様々な考えがある事。確かにメリット・デメリットがあるのだな、とつくづく

感じた。

- コミセンをよく知らない人が多くいられた事におどろいた。
- 若い人との共同作業は楽しかった
- 前回も言いましたが、世代がかたよっています。シニア世代の意見にかたよるようでは、日本の政治と同じ。10代からシニアまで同じ参加比率にしてください。
- 良い人ばかりでした
- コミュニティを育む〈場〉や〈機会〉の創出も大事なれど、社会（市民）の組織化（市役所職員を含めて）再構築を考える時がきているのかなと思いました。
- コミュニティ、地域という広範囲、また漠然としたテーマなのでイメージを掴みにくい。市役所の建物そのものをもっと自由に市民が使えるよう工夫して貰いたいと思う。
- 初めての方と武蔵野市民としてわかりあえてよかった。
- 毎回来るたびに、いろいろ教えられ良いです。
- 良かった
- 色々な提案や人々の考え方が解かり為になった
- 色々な意見があると思った
- 大変興味深かった。
- 最後のまとめの時間が短いです。多くの情報をまとめるのに第1・2ラウンドと同じ時間では終わりません。参加者はゆとりのある方ばかりだと思うので、参加していない弱者の方々の声はひろえているのかな？と気になりました。
- 今回も良い話し合いが出来たと思います。今後も継続してこのような場を持って頂きたい。
- とても参加して良かったです。又このような場を、市としてもどしどし開いてほしいです。
- 昼の人口者にも意見を述べてもらいたい
- とても良かったと思う。皆さん同じことを考えていることがわかりました。
- コミセンを大いに利用し情報を得る
- 同グループの人々と二度と会えない？のは残念
- 発表の時は自由質問の時間があれば良いと思います
- 様々な世代の方の色々な意見が聞けてとても興味深かったです。今後もぜひこの様な会を開いて頂きたいです。
- また参加したいと思います
- 話し合えばみんな同じような意見に。さらに広く深くよい街づくりをして欲しい。
- 市政が身近に感じられた。知らない方と話し合えてとても世界が広がった。今後もワークショップを続けてほしい。
- 最後の記入の時間が足りない気がしました。様々な年代の方が集まる為、もっと時間がほしいです。
- 色々な人と意見交換できて勉強になった。
- 市の制度があっても知らないものが多かった。ただ、分かりやすい市報は難しいと感じた。
- テーマが自治についてとの事だったので、初めは身構えてしまったが、同窓会というふうに考えれば良いと感じられた。同窓会に参加する人は毎回同じである事・・・

- 第3回に初めて案内をいただいたが、できれば最初から参加したかった。言い換えればそれだけ自分の参加意識が変わった、ということである。
- 市議会議員を小選挙区的に選出する案。極論とは思ったが、議員はムリでも地域の代表が委員会をつくり、政策決定や条例制定の過程で、なんらかの役割を果たすとよいのではと思った。議員さんによる地域のケアも、輪番などのルールで可能なのではと思った。
- とても有意義でした。またぜひ参加したいです！！

(3) その他資料

① ワークショップのご案内

(表面)

**みなさまにご協力いただいた
第五期長期計画ができました！**

**ぜひ… 第五期長期計画の紹介と
今後の計画実行にあたって
ワークショップを開催します！**

平成24年1月の市議会の議決を経て、第五期長期計画が正式に成立いたしました。これを受けて、今回初めての試みであった無作為抽出市民によるワークショップに参加いただき、貴重なご意見をくださった皆様に、出来上がった第五期長期計画を紹介したいと思います。

この長期計画では、今後10年間で取り組む基本課題の一つとして、「地域社会・地域活動の活性化」があげられました。この中では地域活動のメンバーの高齢化・固定化や、身近な地域で自分ができる多様な出番・場があることへの理解の必要性が述べられました。また冒頭では、まちづくりの視点として、「つながりを広げよう」「多様性をかかしよう」「市民の意識を行動に変えよう」の3つが掲げられ、市民の思いや意見を、多様な市民の縁や結びつきによって力に変え、行動に移していこう、ということがうたわれています。

東日本大震災以降、地域コミュニティ、地域のつながりについて、関心が高まり、改めて、その必要性や意義が問われています。これは市民自治の原点であり、市政運営の根幹ともいえます。そこで、第五期長期計画を実行していくために、ワークショップに参加いただいた市民の皆様で、今後10年の市政運営の基礎となる地域の人のつながりやこれからの地域と市民参加の市政運営について、市民感覚の自由な発想で意見交換してみませんか。



※このご案内は、これまで行った武蔵野市第五期長期計画無作為抽出市民ワークショップ1～Ⅲにご参加いただいた方にお送りしています。

(裏面)

1 日時等 平成24年3月18日(日) 13:30~16:15(予定)
第1部 第五期長期計画の紹介(市長) 8時
第2部 ワークショップ
※地域の人のつながりやこれからの地域と市民参加の市政運営をテーマにグループで話し合いをしていただく予定です。

2 会場 武蔵野市役所 西棟 8階 811会議室
(武蔵野市緑町2-2-28)

3 謝礼等 4,000円(源泉徴収後3,860円。4月20日前後に口座振替によりお支払いする予定です。)

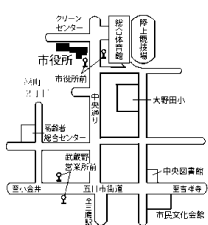
4 参加者 第五期長期計画無作為抽出市民ワークショップⅠ～Ⅲの参加者のうち参加を承諾した方全員

5 参加される方
参加いただける方は、お手数ですが、別紙承諾書にご記入のうえ、同封の返信用封筒によりご返送ください。(平成24年2月27日(月)必着)
※ 託児が必要な方は、承諾書にお子様のお名前(フリガナ)、年齢をご記入ください。

6 その他
・ 参加できる方は、通知のあて先のご本人様のみとなります。ご家族の方などでも代理で参加することはできませんのでご注意ください。
・ 当日は公開で行います。

【会場へのアクセス】
☆吉祥寺駅(北口のりば)
柳沢駅前行き(武蔵野市役所経由)「武蔵野市役所」下車
☆三鷹駅(北口のりば)
北東、武蔵関駅、田無橋行き「武蔵野市役所前」下車
☆武蔵境駅(北口のりば)
三鷹駅行き「武蔵野営業所」下車徒歩8分

★お問い合わせ★
武蔵野市 企画政策室 企画調整課
〒180-8777 武蔵野市緑町2-2-28
TEL 0422 60 1801 FAX 0422 51 5638
E-mail soc-kikaku@city.musashino.lg.jp
※当日のご連絡は、090-4399-9522へ。



(承諾書兼振込依頼書)

第五期長期計画の紹介とワークショップ
参加承諾書 兼 振込依頼書

私は、第五期長期計画の紹介とワークショップの趣旨を理解し、参加することを承諾します。
平成24年 月 日

お名前 _____

生年月日 年 月 日

ご住所 武蔵野市 _____

電話番号 _____

●謝礼振込先(前回と異なる口座へ振込を希望される方はご記入ください。)

振込銀行	銀行・信用金庫		支店
預金種別	普通当座	口座番号	
口座名義	住所		
	フリガナ		
	氏名		

●託児サービスを利用しますか。
①いい
②いい (お子さんのお名前(フリガナ) _____ ・年齢 _____ 歳 _____ 月)

※承諾書に記載された内容については、第五期長期計画の紹介とワークショップの実施目的以外には使用いたしません。

② 見学のルール

ワークショップ見学のルール

1 見学の手続
ワークショップを見学しようとする人は、受付で住所および氏名を記入し、入室中は見学者名札を着用するものとします。

2 見学の定義
見学の定義は、原則として10人程度とし、事務局が会議の状況を考慮して決定します。

3 会場に入ることができない人
(1) 服装その他危険なものを持している人
(2) 酒気帯りしていると認められる人
(3) 運び紙、ビラ、旗の類を持している人
(4) 笛、ラッパ、太鼓その他楽器の類を持している人
(5) 会議を妨害し、又は人に迷惑を及ぼすと認められる人

4 見学者の守るべき事項
(1) 一切の発言はできませんので、あらかじめご了承ください。
(2) 飲食又は喫煙はできません。
(3) 写真、ビデオ等の撮影又は録音はできません。ただし、特に事務局の許可を得た場合を除きます。
(4) ワークショップ開催中は、携帯電話の電源を切るか、マナーモードに設定してください。
(5) その他ワークショップの運営に支障となる行為はしないでください。
(6) 話し合いの支障となるような行為は厳禁してください。
(7) 事務局の指示に従ってください。

5 その他
(1) 入室室は、進行に支障のないように配慮してください。
(2) 見学者は、事務局が会議の進行に支障があると判断した場合又は見学者がこのルールに定める事項に従わない場合で、事務局から入室の指示があったときは、直ちに入室しなければなりません。
(3) お帰りの際には、見学者名札を事務局へご返却ください。

③ プログラム

(表面)

第五期長期計画の紹介とワークショップ プログラム

日時:平成 24 年 3 月 18 日(日) 13:30～16:15
場所:武蔵野市役所 811 会議室

みなさまにご参加いただき決定した第五期長期計画が、平成 24 年 1 月の市議会
の議決を経て成立いたしました。

策定過程では様々な意見が寄せられました。中でも、地域コミュニティに関する
意見が非常に多くありました。そのため、この長期計画では「地域社会・地域活動の
活性化」を基本課題の一つとしました。また、市政運営について「市民自治を原則とし
て市政運営を行っていくために必要な制度や手続き等のルール化を進めることで、自
治体運営に関するルールの体系を構築し、本市が目指す自治のあり方を市民・議
会・行政で共有していく」と記載しました。

東日本大震災を経験して、地域の人間士のつながりやコミュニティに関心が高まる
とともに、多様な形で多くの市民がコミュニティの活動に参加する必要性が再認
されています。

今日は、第五期長期計画の内容等について市長から紹介するとともに、この計画
の全ての分野に共通する根源的な課題として掲げられたコミュニティ・地域のあり方
や、昭和 46 年の第一期長期計画の策定以来育んできた市民自治や市政への参加
のあり方について、みなさんに話し合っていきたいと思います。

(裏面)

— 今日の流れ —

第一部	13:30～14:00	長期計画の紹介(邑上市長)
第二部	14:00～14:10	事務局長説明&話し合いの準備
ワーク ショップ	14:10～14:40	第1ラウンド ①名札に書いた名前(ニックネームでOK!)で自己紹介をします。 ②自己紹介が終わったら、付せんにも書いた内容を説明してください。 ③みんなの自己紹介、説明が終わったら話し合いの地です。 ④どんな意見を出し合って、付せんに書き留めましょう!
	14:40～15:10	第2ラウンド *テーブルを移動してメンバーを交代します。 ①新しいメンバーで自己紹介をしてください。 ②前のグループで話し合った内容を簡単に紹介してください。 ③感じたことなど自由に話し合います。 ④新しい気づきなど、どんな付せんに書き留めましょう!
	15:10～15:40	第3ラウンド *第1ラウンドのメンバーに戻ります。 (グループ意見をまとめるラウンドです!) ①前のラウンドで話し合った内容を簡単に紹介してください。 ②グループとして、関心が高かった話題、重要だと考えることなどを、3つにまと めて、構造紙に書き込んでください。
	15:40～16:10	グループ意見の発表 グループごとに、まとめた意見を発表します。 (1グループ3分程度をお願いします。) 発表が終わったら拍手で称えましょう! ※投票は行いません。
	16:10～16:15	終わりの言葉(市長)

【発表用シート印刷中】

話し合った内容を簡単に紹介してください

① 話し合った内容を簡単に紹介してください

② 関心が高かった話題、重要だと考えることなどを、3つにまとめて、構造紙に書き込んでください

③ 感じたことなど自由に話し合います

④ 新しい気づきなど、どんな付せんに書き留めましょう!

発表が終わったら拍手で称えましょう!

※投票は行いません。

④ テーマごとの情報提供資料 (当日机上配付)

「市民自治」グループ用

武蔵野市第五期長期計画(抜粋)

第4章 基本的な考え方、市政を取り巻く主な動向、基本課題

1 本計画の基本的な考え方

(1) 市民自治の原則

市民自治は、昭和 46 年に策定した第一期長期計画において計画の原理とされ、以来 40
年間におたって武蔵野市の市政運営の基本原則として継承されてきた。市民自治の原則とは、
市民は主権者として、自らの生活地域について、自ら考え、主体的に行動し、その行動や選
択に責任を負うことという。本計画においてもこれを継承しつつ、武蔵野市の「自治」を一層発
展させていく。

第6章 施策の体系

VI 行・財政

(3) 市政運営等に関する将来像の共有化

地方自治法の抜本改正に関する検討が進められており、自治体の姿に変化が起こる可能性
もあるため、市の基本構造等を検討していく。また、市民自治を原則とした市政運営を行って
いくために必要な制度や手続き等のルール化を進めることで、自治体運営に関するルールの体系
を構築し、本市が目指す自治のあり方を市民・市議会・行政で共有していく。

補完性の原理

個人ができないことを家族が助け、家族でもできないことを地域のコミュニティ
が助け、地域でもできないことを市町村が助けるという、自助・共助・公助の考え
方にもとづく根本法則。

「地域コミュニティ」グループ用

武蔵野市第五期長期計画(抜粋)

第4章 基本的な考え方、市政を取り巻く主な動向、基本課題

3 本計画期間における基本課題

課題A 地域社会・地域活動の活性化

平成 22 年度に実施した市民意識調査によると、地域に関心を持つ市民の割合は「非常に関
心がある」と「ある程度関心がある」という回答を合わせると 89.6%と大変高くなっている。特に東
日本大震災以降、あらためて地域コミュニティの意義が問われている。一方で近隣関係の
希薄化が進んでいることから、地域活動への参加のきっかけを見出しにくい面もあり、活動
への参加者の広がりが見られず、メンバーの高齢化・固定化などの課題が発生している。

地域コミュニティには、①コミュニティ機能に基づき、自主活動として行われてきた、地域の「つ
ながり」を築くためのコミュニティ活動と、②防犯・防災、福祉、子育て支援、青少年の健全育成、
環境、まちづくりなどの課題解決のための地域活動がある。後者は民生委員、消防団などの
行政変型型の市民活動や、多様な団体、NPO 等が担っているテーマ別コミュニティ活動がある。

「つながり」が感じられる近隣関係を築いていくためには、地域ごとに、地域への愛着や誇りを
醸成し、共有する必要がある。一方、地域活動は多様化しており、地域活動への参加意思を持
っている市民の多様性を認めることで、活動への参加につなげていかなければならない。このよ
うな市民の力を発揮できる環境の整備も必要である。

これは一朝一夕にできるものではなく、様々な機会を通じてコミュニケーションを促るととも
に、市民・団体・市が連携しながら様々な方法を積み重ねていく必要がある。地域を担うのは市
民自身であることや、身近な地域には自分でできる多様な「出番・場」があることへの理解を情報
提供などを通じて、醸成していく。

第6章 施策の体系

VI 行・財政

(3) 市政運営等に関する将来像の共有化

地方自治法の抜本改正に関する検討が進められており、自治体の姿に変化が起こる可能性
もあるため、市の基本構造等を検討していく。また、市民自治を原則とした市政運営を行って
いくために必要な制度や手続き等のルール化を進めることで、自治体運営に関するルールの体系
を構築し、本市が目指す自治のあり方を市民・市議会・行政で共有していく。

補完性の原理

個人ができないことを家族が助け、家族でもできないことを地域のコミュニティ
が助け、地域でもできないことを市町村が助けるという、自助・共助・公助の考え
方にもとづく根本法則。

⑤ レジюме

資料
2012.3.18

第五期長期計画のスタートにあたって

1. 長期計画の概要

■策定経過／市民参加・議員参加・職員参加で策定（p72参照）

- 市民参加：公尊市民会議（5回）／策定委員会（55回）／ワークショップ（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、延べ6日間）／シンポジウム／関係団体市民会議／圏域別市民会議（6回）／パブコメ（2回）
- 議員参加：策定委員会との意見交換（2回）／長期計画審査特別委員会（3日間）／議決
- 職員参加：市内推進本部／市内分野別検討チーム／職員意見募集／全体事務局

■長期計画条例で規定

＊地方自治法での基本構想策定義務廃止一市の条例で市の最上位計画としての長期計画の策定を規定し、議決部分（基本理念と施策の大綱）を明確化。一やがては、自治に関する様々なルールと体系化を図る（自治基本条例など）。

参 長期計画条例（平成23年12月）

長期計画：10年を一期とし、前期を実行計画、後期を展望計画とし、市の実施する政策の根拠とする

計画の見直し：市長選挙や情勢の大きな変化があったときには実行計画を見直す

市民参加：市民、市議会議員、市職員の参加を原則

議決：長期計画のうち基本理念と施策の大綱の部分

■第五期長期計画のポイント

- 計画期間：平成24年度～平成33年度（10か年）
- まちづくりの視点と目標
 - テーマ：「武蔵野から新しい都市像を開こう」
 - ＊誇りを持って継承できる持続可能な都市を創造する
 - 3つの視点：「つながりをひろげる」「多様性を力に」「意識を行動に」
 - 4つの目標：「自治と連携」「支え合いをつむぐ」「平和で美しいまち」「環境と共生する」
- 7つの重点施策と6分野の施策を基本に、財政と整合した市政運営

参 第五期長期計画の構成

まちづくりの視点と目標

第1章 市勢

第2章 長期計画策定方式

第3章 これまでの成果

第4章 基本的な考え方

第5章 重点施策（7項目）

第6章 施策の体系（6分野）

第7章 財政計画

2. これからの課題

■コミュニティ・地域のあり方

- ＊武蔵野市には、町内会や自治会が全市的には網羅されていない（27団体、世帯加盟率12％）
- ＊コミュニティづくりの自主三原則（自主参加、自主企画、自主運営）
- ＊少子高齢化、単身世帯増（平均世帯人員1.9人）でコミュニティの基盤が厳しい
- ＊コミセン（16）、小学校区（12）、中学校区（6）、地域福祉の会（13）、町（13）・・・多様な単位
- ＊地域福祉、子育て、青少年の健全育成、防災・防犯、まちづくりなどで地域の力が不可欠
- ＊地域の力を得るためには、日頃からコミュニティを育む必要がある

■自治のあり方

- ＊武蔵野市はどのような自治に向け前進すべきか／積極的な市民参加による市民自治の展開
- ＊市民はどこまで責任ある参加ができるか／地域参加の必要性、参加と協働のあり方
- ＊市庁（市）と議会の役割
- ＊市民の範囲、市民参加の方法、住民投票制度の必要性
- ＊ルール化の必要性

武蔵野市第五期長期計画紹介
及びワークショップ報告書
(平成 24 年 3 月 18 日開催)

平成 24 年 3 月

発行 武蔵野市企画政策室企画調整課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町 2 丁目 2 番 28 号
電話 0422-60-1801